



ein Film von Ulrike Ottinger

異端の歴史を巡る、禁断のオペレッタ

フリーク・オルランド



daad-galerie

FREAK ORLANDO

第2回東京レズビアン・アンド・ゲイフィルム・フェスティバル招待作品

監督・脚本・撮影 ● ウルリケ・オットインガー

1981年/ドイツ/カラー/35mm/1:1.66

マグダレーナ・モンテツーマ+デルフィーヌ・セリグ+エディ・コンスタンティーヌ

配給 ● スタンス・カンパニー

FREAK ORLANDO

フリーク・オルランド

1981/ドイツ/35mm/127分

◆スタッフ◆

監督・脚本・撮影・美術●ウルリケ・オットンガー
 編集●デルテ・ベルツ
 衣装●ヨルゲ・ヤラ
 音楽●ヴィルヘルム・I、ジーベル
 録音●マルギット・エッセンバッハ
 製作●ハラルド・ムシャトウ
 制作●ウルリケ・オットンガー・フィルムプロダクション
 ヒア・フランケンベルク、ZDF

◆キャスト◆

マグダレーナ・モンテツマ●オルランド
 デルフェイヌ・セリグ●ヘレナ・ミュラー/生命樹の女神
 デパートのアナウンサー/奇跡の産みの母
 シヤム双生児のレナ/バニー
 アルベルト・ハインズ●ヘルベルト・ゼウス(デパートのマネージャー)
 /司祭/精神病院長/薬品セールスマン
 クラウディオ・バントーヤ●
 デパートの探偵/曲芸師/修道僧/ケルペロス/鳥男/看護兵
 ガリ●ヒロ・ウチヤマ/ガリ・エル・プリモ/年代記者
 エルゼ・ナブ●聖ヴィルゲフォルト
 テレーゼ・ヴェンブ●生きた彫像/左の頭
 フランカ・マグナーニ●レポーター
 ジャッキー・レイナル●シヤム双生児レナ/バニー
 エディー・コンスタンティヌス●柱頭行者



界は、ブニュエルの「銀河」を思わせる巡礼の物語の中に、権力の持つ醜さを告発し、「本当のフリークスとは何か?」という根本的な問題を投げ掛けてきます。

また、時間を越え、形を変えて永遠に出会い続けるオルランドとヘレナ・ミュラーの物語の中から、レスビアンとしてのオットンガーの女同志の永遠の関係に対するファンタジーも読みとることが出来るでしょう。

シュレーター作品での強烈な個性が印象的だったマグダレーナ・モンテツマ、レネやブニュエルの映画で活躍したデルフェイヌ・セリグ、「新ドイツ零年」を残したエディー・コンスタンティヌスなど、失われた大物俳優と様々な異形の人々の共演によるこの「フリーク・オルランド」は、人工性と官能性に満ちた異色作を精力的に発表し続ける、オットンガーの代表作であり、記念すべき日本初劇場公開作です。



巡礼者オルランドが巡る “世界の歴史”についての、 五つのエピソード。

◆エピソード1

有史以前の神話的な時代。三つの目を持ったオルランドは、靴職人の七人の小人達と一緒にフリーク・シティのデパート“人間倉庫”から支配人ヘルベルト・ゼウスによって追放される。七人の小人の女王となったオルランド。トロイの木馬。彼女は、柱頭行者の後を継ぐことを拒んだために命を失う。

◆エピソード2

オルランドは初期キリスト教教会(バジリカ)の石段で奇跡の子として誕生する。中世暗黒時代。奇跡、熱狂、邪教信仰、予言、誇大な願望が信じられた時代。彼女は二つの頭が発する二声の歌で周囲にいる人々を魅了する。聖なる髭女ヴィルゲフォルトの修道院。巨大なデパートでオルランドは新しい衣装を身につけ、驚くべき変身を遂げる。

◆エピソード3

18世紀初めのスペイン。異端を追求する追跡者たち。ゴヤの絵画を想わせる拷問場面。社会から排除された人々が“阿呆船”に乗せられて連れ去られる。中世の芸人たち、愚か者、魔女、アマゾネス、迫害された科学者、芸術家、肢体不自由者、兵士、同性愛者らがかつてファシズムの舞台となったオリンピック競技場の中に消えてゆく。

◆エピソード4

男性に生まれ変わったオルランドは放浪するサーカスの見せ物一座の仲間になる。世紀末。人々を魅了すると同時に震えあがらせる世界。オルランドはシヤム双生児の一人、レナに恋をするが、もう一方のレナにはそれが堪え難い。オルランドは錯乱し、レナをナイフで殺してしまうが、同時に愛するレナをも失ってしまう。

◆エピソード5

現代社会を風刺した「醜い者達のフェスティバル」。アウトサイダー達によるコンテストとダンス。完璧に馴れられ、社会に適応したサラリーマンに優勝杯が贈られる。彼はバニーガールとともにハッピーエンドの音楽に乗ってロマンスの階段を登ってゆく。そして朝が来て、オルランドの物語は終わる。

フリーク・オルランド ——— オルランド・フリークス 沈黙 夢 狂気、 そして抑圧されたものの 考古学に関する映画。

セクシャリティーを越え、時代を超えて生き続けるオルランドを主人公にした、イギリス近代文学の代表作“オーランド”。近年、サリー・ポッターの映画化により、一躍脚光を浴びたヴァージニア・ウルフの小説を基に、ドイツ映画の鬼才として欧米で高い評価を受ける女性映画監督ウルリケ・オットンガーが、独自の解釈と映像感覚によって映画化した'81年の異色作がこの「フリーク・オルランド」です。

神話の世界から現在にいたる人類の歴史を、象徴的な五つのエピソードによって描いた「小さな世界劇場」ともいべきこの映画は、それぞれの時代に性と姿形を変えて現われる“オルランド”を狂言回しにしながら、“フリークス”と呼ばれ、時代の中で排除されてきた人々の歴史を描きだしてゆきます。ドキュメンタリーとファンタジーの混在、強烈に脈打つ「ドイツロマン主義」の伝統、ブレヒト、アルトールなどの近代演劇の影響、様々な隠喩と象徴に満ちた華麗な映像世

10月8日(土)より(21日)レイトショー!

●PM8:35より上映 (終映PM10:45)

ただし、毎日曜日は休映致します。

※特別鑑賞券¥1,300(当日学生¥1,600 発売中!)

●劇場窓口、エスト1PG、チケットセゾン、チケットぴあにてお求め下さい。

梅田ロフトB1 06(359)1080

テアトル梅田